## 子どものためのワクチン接種最新情報 2020-コロナ流行に打ち勝つための体づくり-

\*

\*

京都市立病院 副院長/感染管理センター部長 清水 恒広

\*

令和2年10月1日より、子ども対象の定期接種ワクチンの中に新たにロタウイルスワクチンが加わることになりました。ロタウイルス感染症は乳幼児に嘔吐、下痢、食欲不振などの症状をもたらすウイルス性胃腸炎で、強い脱水症状や時にけいれんや脳症も引き起こし、命に関わる病気でもあります。重症化を予防する効果のある経口のロタウイルスワクチンを、WHO(世界保健機構)は全世界の子どもたちが接種するべきワクチンとして以前より強く奨めてきました。

日本では2011年、2012年と2種類のワクチンが世にでましたが、ご家族の希望のもとに行う任意接種のワクチンでした。欧米先進国の接種状況からしますと、10年以上前の日本では公費負担で受けられる子どものワクチンの種類は十分とは言えず、その意味でワクチン後進国でした。しかしこの10年で、髄膜炎を予防するヒブワクチン、肺炎球菌ワクチンや、B型肝炎ワクチン、水痘(みずぼうそう)ワクチンが定期接種となり、公費接種できるようになりました。

しかし、公費負担で接種拡大したいワクチンとして残っていたものの一つが、 ロタウイルスワクチンであったのです。今後はおたふく風邪ワクチンやインフ ルエンザワクチンも定期接種になることが期待されており、国の検討を待ちた いと思います。

今回、ロタウイルスワクチンの定期接種化とともに、接種を行う上で大きく変わることがもう一つあります。それは、異なる予防接種を行う際の接種間隔が大幅にゆるめられたことです。10月までは、注射であれ、経口であれ、生ワクチンを接種すると、異なるどのようなワクチンでも27日間まるまる開けてからでないと接種できませんでした。しかし、これも日本以外の世界の例にならい、異なる注射の生ワクチンの接種間隔のみ27日以上開ければよいことになりました。すなわち、経口の生ワクチンであるロタワクチンを接種しても、翌日に異なるどんなワクチンでも接種が可能となったのです。これはご家族の方にとっても朗報で、より短期間で必要なワクチン接種をどんどん進めていけます。

子どもたちが成長していく過程で、色々な感染症に対する抵抗力を乳児期からつけておく必要があります。新型コロナウイルス感染症流行下ですので、なおさら抵抗力はしっかりしたものにしなければなりません。受診によりコロナにかかるのではないかと恐れるのではなく、必要な予防接種は、必要な時期に確実に接種しておきたいものです。きちんと接種しておくことで、コロナに打ち勝つ体がつくれるものと確信しています。